✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　気候講演会を開催しました

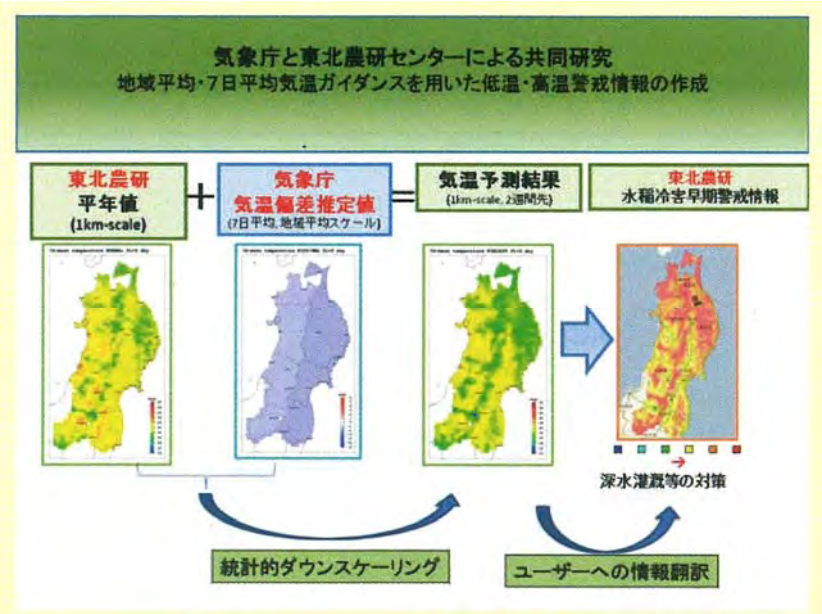
平成 25 年 1 月 18 日（金）午後、気象庁、一般財団法人日本気象協会及び当センターの共催で気候講演会を開催しました。会場となった気象庁講堂には、事前に予約受付をした一般からの参加者が続々と来場し、開演を待ち受けました。
今回の講演会は、「気候と私たちの生活～異常気象・気候変動と農業～」をテーマとして４つの講演が行われました。

講演１の一橋大学櫻井教授は「異常気象と食糧安全保障」と題してアフリカのサヘル地域での降水量の近年の大きな変動が、当地の食糧事情を支配していることを指摘されました。

講演２の「顕在化する温暖化・気候変動の農業への影響」は北海道大学鮫島教授が、温室効果ガスの濃度増加に伴い、高緯度地域での農業生産の態様が変化することから、生産品種の対応が不可欠となることを述べられ、米作を例として北海道で「ひとめぼれ」の栽培は可能だが、「コシヒカリ」の栽培は難しいとの結果を得たことを報告されました。

講演３は独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター菅野上席研究員が講演し、東北地方の農家に対する 1km メッシュのきめ細かい冷害等への対策に役立てる情報提供を行っていることを報告しました。インターネットを活用して一般の農業従事者に提供している『水稲冷害早期警戒情報』には、気象庁との共同研究を活用して「異常天候早期警戒情報」もシステムに取り入れていることを説明されました。

最後に、横手気象庁気候情報課長は、例えば世界気象機関が気候サービスのための情報活用を呼びかける中で、気候情報の利活用を推進している状況について話題提供し、気象庁がさらに幅広い分野で気候情報を活用頂けるように気候リスクの評価を支援するため、気象庁ホームページ等における観測・統計・予測データの利便性の向上を進める取り組みを一層進めていくことをのべました。これらの取り組みにより、季節予報などの気候情報を活用した気候リスクの軽減を目指すことを述べられました。



講演３　東北農業研究センター
２週目予測 1km メッシュ気温データの作成方法